

## 報告(1)国登録有形文化財(建造物)の登録抹消について

福岡市内の国登録有形文化財「旅館鹿島本館」3棟について、現状変更(解体)が行われたことから、文化財保護法(昭和25年法律第214号)第59条第3項の規定に基づき、令和4年2月17日付けをもって、登録有形文化財の登録が抹消されました。

- 1 登録名称 旅館鹿島本館管理棟・旅館鹿島本館客室棟・旅館鹿島本館表門及び塀
- 2 所在場所 福岡市博多区冷泉町
- 3 登録年月日 平成19年5月15日
- 4 所有者 有限会社鹿島本館
- 5 概要 旅館鹿島本館は、櫛田神社に近い冷泉町(旧・萬行寺前町)に所在し、間口6間×奥行30間という町家特有の細長い敷地に建つ。昭和初年には開業していたと考えられるホテルを前身とする。第二次世界大戦末期の福岡大空襲で焼け残り、博多の町並みを今に伝える建造物であった。



鹿島本館管理棟および塀



鹿島本館管理棟客室



鹿島本館位置図

○文部科学省告示第十六号  
 文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四十四号）第五十九条第三項の規定に基づき、令和四年二月十七日付けをもって次の表に掲げる登録有形文化財の登録を抹消したので、同条第四項の規定に基づき告示する。

令和四年二月十七日

文部科学大臣 末松 信介

名 称	関 係 告 示	所 在 地
常徳院庫裏	平成十八年文部科学省告示第百四十一号	長野県長野市元善町六一五
常徳院小御堂及び東庫裏	平成十八年文部科学省告示第百四十一号	長野県長野市元善町六一五
常徳院茶室	平成十八年文部科学省告示第百四十一号	長野県長野市元善町六一五
よろづや旅館松籟荘	平成十五年文部科学省告示第百七十二号	長野県下高井郡山ノ内町大字平穩三二一三七
原田家住宅離れ	平成三十年文部科学省告示第五十五号	静岡県焼津市浜当目一丁目四九二
油正ホール	平成二十年文部科学省告示第二十五号	三重県津市久居本町一五八七他
山善醤油油蔵	平成十七年文部科学省告示第十八号	香川県小豆郡小豆島町木庄字谷甲二五九
山善醤油操作場	平成十七年文部科学省告示第十八号	香川県小豆郡小豆島町木庄字谷甲二五九
山善醤油麴室	平成十七年文部科学省告示第十八号	香川県小豆郡小豆島町木庄字谷甲二五九
山善醤油北土蔵	平成十七年文部科学省告示第十八号	香川県小豆郡小豆島町木庄字谷甲二五九
山吉山本家住宅納屋	平成十七年文部科学省告示第十八号	○香川県小豆郡小豆島町馬木字今坂甲七一
旅館鹿島本館管理棟	平成十九年文部科学省告示第八十九号	福岡県福岡市博多区冷泉町一四八他
旅館鹿島本館客室棟	平成十九年文部科学省告示第八十九号	福岡県福岡市博多区冷泉町一四八他
旅館鹿島本館表門及び扉	平成十九年文部科学省告示第八十九号	福岡県福岡市博多区冷泉町三一一一

## 報告(2)福岡県指定無形文化財 工芸技術の指定について

令和4年3月11日(金)に開催された福岡県教育委員会会議において、福岡県を代表する伝統工芸である筑前琵琶制作の技術保持者にドリアーノ スリス氏、人形制作の技術保持者に中村 信喬氏が下記のとおり認定されました。後日、福岡県公報に登載される告示の日をもって指定となります。

### 1 福岡県指定無形文化財 「筑前琵琶制作」

〈保持者〉ドリアーノ スリス Dorian Sulis

1947年7月10日(生年月日)

#### 〈概要〉

ドリアーノ氏は、筑前琵琶制作技術の保持者である吉塚元三郎氏に師事し、以来40年以上にわたり、筑前琵琶の制作・修復を行っている。筑前琵琶の発祥地でその技術が継承されていることは意義深く、現在その高度な技術を保持するのはドリアーノ氏のみで、貴重な存在である。



ドリアーノ スリス氏

### 2 福岡県指定無形文化財 「人形制作」

〈保持者〉中村信喬 (なかむらしんきょう)

昭和32(1957)年1月28日(生年月日)

#### 〈概要〉

中村氏の人形制作は、福岡県の伝統的な博多人形制作技術を拠りどころに、多面的な技法を取り入れ、芸術性も高く卓越したものであり、取り扱う作品の材質やテーマは多彩な広がりを見せる。その経験や技術は人形修復による文化財保護にも活かされており、本県を代表する工芸技術として指定されるものである。



中村 信喬氏

Steeldog Photo

(スティーールドッグ・フォト)

Photographer マツモトカズオ

## 1 物件の表示

類型等	無形文化財 工芸技術
名称	筑前琵琶制作（ちくぜんびわせいさく）
保持者の氏名	ドリアーノ スリス Dorian Sulis
保持者の生年月日	1947年7月10日
保持者の住所	福岡市中央区

## 2 物件の概要

筑前琵琶は、薩摩国とともに盲僧琵琶（盲人僧侶による演奏に合わせた読経など）の中心であった筑前国・福岡の地で成立した。筑前盲僧琵琶の奏者である橘旭翁が、戦国時代に薩摩地方で武士の教養として成立した薩摩琵琶の研究と筑前盲僧琵琶の改良により、明治期に筑前琵琶を創出した。筑前琵琶の特徴は唄いながら伴奏を伴う点で、明治末期から大正にかけて全国に普及し、最盛期は演奏人口1万人、博多の琵琶制作工房が24軒あったとされる。

筑前琵琶の制作には、桑を中心とした硬木材で各部位、桐で腹板（胴の表側）を作るとともに、それらを組み合わせる木工技術が必要で、象牙や貝類の細工技術も必要とする。また、筑前琵琶は語りの伴奏を主とするので、演奏者によってそれぞれ異なる音域のものを必要とする。したがって、演奏者ごとで楽器に微妙な違いがあるため、その制作者は演奏ができるとともに楽器の特性を熟知していること等の高度の修練を要する。

吉塚元三郎氏（明治28年（1895）9月9日生まれ）は、当時県内唯一の筑前琵琶制作者として昭和45年（1970）5月2日に県指定無形文化財の保持者となったが、平成4年（1992）9月2日に吉塚氏の死亡により県指定が解除された。今回指定しようとするドリアーノスリス氏は、イタリアのサルデーニャ出身で、来日した翌年の昭和50年（1975）から吉塚氏のもとに弟子入りし、5年間にわたり筑前琵琶の制作を学んだ。以来40年以上にわたり琵琶の制作・修復に携わる。修復では、様々な状態の残存部との調和を図りながら完全な状態に仕上げため、制作以上の技術を要すると言える。自宅及び琵琶館（福岡市中央区今泉）に工房があり、後進育成で制作技術全般の継承の取り組みもなされている。全国的にも琵琶の制作・修復が可能な人物は非常に限られ、筑前琵琶での制作・修復技術を保持するのはドリアーノ氏のみで、貴重な存在と言える。

筑前の国は、盲僧琵琶の時代から琵琶の中心地であり、筑前琵琶の発祥の地として知られている。琵琶制作が盛んであった福岡県の地に、その技術が継承されていることは意義深いと言える。現在では、その制作者が極めて限られ、同氏が高度な制作技術を体得していることから、指定するものである。

<本件に関する問合せ先>

福岡県教育庁教育総務部文化財保護課 坂元 雄紀 TEL：092-643-3875（内線5388）



ドリアーノ スリス氏

## (2) 福岡県指定無形文化財 「人形制作」

### 1 物件の表示

類型等	無形文化財 工芸技術
名称	人形制作 (にんぎょうせいさく)
保持者の氏名	中村信喬 (なかむらしんきょう)
保持者の生年月日	昭和32年 (1957) 1月28日
保持者の住所	福岡市中央区

### 2 物件の概要

中村信喬氏は、博多人形師中村 衍涯 氏 (福岡県指定無形文化財「博多人形制作技術」保持者) の長男として昭和 32 年 (1957) に福岡県に生まれ、九州産業大学芸術学部卒業後、京都での修行を経て、昭和 55 年 (1957) から衍涯氏に師事した博多人形店「中村人形」の三代目である。

中村氏が制作活動の主体とする博多人形は、江戸時代に起源をもち、時代を経ても時代に合った鑑賞用の装飾人形として今日まで受け継がれ、本県を代表する人形制作技術として無形文化財の指定をしており、現在は 6 名が保持者となっている。中村氏は、日本、中国の古事を題材にした作品や、天正遣欧少年使節を題材とした独自の作風の博多人形の作品を展覧会へ出品し、平成 11 年 (1999) の日本伝統工芸展での高松宮記念賞の受賞を代表に数々の受賞歴がある。

このような博多人形に軸足を置いた中村氏の活動は、積極的な他分野の技術習得や作品制作にも広がりを見せている。技術の習得では、昭和 60 年 (1985) に京都の人形作家 林 駒夫 氏 (重要無形文化財「桐壱人形」保持者) に師事した他、陶芸家の村田 陶苑 氏や能面師の北沢 一念 氏にも師事して多方面にわたる技術・技法を習得し、人形制作だけでなく人形修復にも活かされている。

博多人形以外の制作では、博多人形師が担う重要無形民俗文化財博多祇園山笠の山を飾る人形の制作を中村氏も長期にわたって携わる。さらに、太宰府天満宮 御神忌 一千百年大祭の「御神 牛・菅原道真公像」、住吉神社の「古代力士像」、九州芸文館の「石馬」をはじめ、福岡市動物園の「座れるゴリラの彫刻」、KITTE「エンジェルポスト」と様々な材質をもとに触れ合える作品など多様な制作活動を通じて、地域貢献や伝統文化の普及も行っている

福岡県の伝統的な博多人形制作技術を抛りどころに、多面的な技法を取り入れた中村氏の人形制作は、芸術性も高く卓越したものであり、取り扱う作品の材質やテーマは多彩な広がりを見せている。さらにその経験や技術は数々の人形修復による文化財保護にも活かされている。また、県内における一連の活動は、多方面の文化振興に貢献するものであり、技術の継承にも幅広く取り組まれていることから、本県を代表する工芸技術として指定するものである。

<本件に関する問合せ先>

福岡県教育庁教育総務部文化財保護課 坂元 雄紀 TEL : 092-643-3875 (内線 5388)



中村 信喬氏

Steeldog Photo (スティールドッグ・フォト)

Photographer マツモトカズオ



星夜 (令和3年第55回西部伝統工芸展出品)